



東北大学



2012年10月3日
東北大学大学院医学系研究科
東北大学病院

心因性ストレスと消化性潰瘍の因果関係を解明

—東日本大震災前後の集計結果より—

東北大学病院消化器内科の飯島克則講師、菅野武医師らは、東日本大震災前後の宮城県被災地での消化性潰瘍の発生状況を、宮城県内7つの主要病院のデータを基に集計しました。その結果、一般的に消化性潰瘍の原因と考えられているピロリ菌感染、薬剤性傷害などの危険要因を持たない、純粋なストレス性潰瘍と考えられる症例が前年度13%から24%に増加し、人において心因性ストレス単独でも消化性潰瘍が発症しうることが初めて示されました。本研究成果は、Journal of Gastroenterology 誌電子版に間もなく掲載予定です。

【研究内容】

胃・十二指腸潰瘍などの消化性潰瘍は、古くから不安や恐怖などの心因性ストレスとの関連が考えられてきました。しかし、近年、消化性潰瘍の大部分は、ピロリ菌感染、または薬剤性傷害によって生じることが明らかにされ、ストレス単独での潰瘍発症に関しては否定的な見解が多くありました。日常生活では、人それぞれに心因性ストレスの期間、程度が異なるため、消化性潰瘍との関連を研究することは、困難でした。一方、大きな自然災害では、地域住民に同時に広く心因性ストレスが加えられるため、災害前後での消化性潰瘍の成因を調べることは、人における心因性ストレスと消化性潰瘍の関連を調べる貴重な機会となりました。我々は、石巻赤十字病院など宮城県被災地域内の主要7病院での東日本震災後3ヶ月間に起きた消化性潰瘍を集計し、前年度同期間のものと比較しました。その結果、消化性潰瘍は前年に比べ、1.5倍に増加し、特に、ピロリ菌感染や薬剤服用などのない、純粋なストレス性潰瘍と考えられるものの割合が、前年の13%に比べ、震災後は24%に増加していました。また、純粋なストレス性の潰瘍は、高齢者で多く見られました。この結果は、心因性ストレス単独でも消化性潰瘍を発症するというを示しており、特に高齢者では、心因性ストレスのかかる状況では、潰瘍予防への対策が必要となると考えられます。

【用語説明】

ピロリ菌：人の胃粘膜に棲みついて、消化性潰瘍、胃癌の原因となる。

【論文題目】

Peptic ulcers after Great East Japan earthquake and tsunami: Possible existence of a psychosocial stress ulcer in human (Journal of Gastroenterology 電子版)

(邦訳)「東日本大震災後の消化性潰瘍-心因性ストレスとの関連」

公開予定のサイト：<http://www.springer.com/medicine/internal/journal/535>

(Springer社 Journal of Gastroenterology サイト)

(お問い合わせ先)

東北大学病院 消化器内科

講師 飯島 克則 (いじま かつのり)

電話番号 : 022-717-7171

Eメール : kiijima@med.tohoku.ac.jp

(報道担当)

東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室

長神 風二 (ながみ ふうじ)

電話番号 : 022-717-7908

ファックス : 022-717-8187

Eメール : f-nagami@med.tohoku.ac.jp